

## 第1学年 算数科学習指導案

児童 1年1組 男13名 女13名 計26名

授業者 T1 山下 みゆき T2 志田 幸子

### 1 単元名 ひきざん

### 2 単元について

#### (1) 教材について

本単元のねらいは、10までの数の合成・分解の学習を生かし、半具体物を用いた活動などを通して繰り下がりのある減法の計算の仕方を考え、それらの計算が確実にできるようにすることである。

減法計算は、これまでに1位数－1位数や $13-3$ 、 $15-3$ などの計算で、繰り下がりのない場合を学習してきた。繰り下がりのある計算は初出であり、次学年以降の減法の筆算の基礎となるものなので計算の仕方を十分に理解させ、確実に計算できるようにさせたい。

#### (2) 児童の実態

レディネステストの主な結果は以下の通りである。

- ①繰り下がりのない減法計算ができるか。 (誤答7名)  
10といくつの減法計算ができるか。 (誤答5名)  
3口の加減混合や減法計算ができるか。 (誤答13名)
- ②数の合成や分解ができるか。 (誤答6名)
- ③3口の加減混合の文章問題ができるか。 (誤答13名)
- ④(未習内容)繰り下がりのある減法計算の文章問題ができるか。(誤答11名)

以上のことから、3口の加減混合計算の仕方を忘れていた児童が多いことが分かった。また、たしざんの学習直後であったため、ひきざんをたしざんで計算している児童もいた。そこで、ひきざんの計算の仕方や3口の計算について復習を確実に行ってから、本単元の学習に入りたい。

### 3 単元の目標

11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。

**【関心・意欲・態度】** 既習の減法計算や数の構成を基に、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考えようとしている。

**【数学的な考え方】** 11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて表現したり工夫したりすることができる。

**【技能】** 11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が確実にできる。

**【知識・理解】** 10のまとまりに着目することで、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算ができることを理解する。

### 4 単元の指導計画(全12時間)

時	目標	学習活動	おもな評価規準
(1) 13-9のけいさん p.107~110 5時間			
1	○11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法	・場面を読み取り、立式をする。 ・13-9の計算の仕方を考える。	○既習の加減計算や数の構成を基に13-9などの計算の仕方を考えようとしている。
2	計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)を理解する。	・減加法による計算方法をまとめる。 ・ブロックなどを用いて12-9の計算の仕方を考える。	○13-9などの計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて説明することができる。

3	○前時までの学習をふま え、11～18から1位数を ひく繰り下がりのある 減法計算で、被減数を分	・減数が8の場合の計算の仕方を考える。 ・ブロックなどを用いて11-8の計算の仕 方を考える。 ・減加法を用いて計算練習に取り組む。	図減加法による計算が確実にできる。 図減数が8～5の場合でも、10のまとまりから1位 数をひけばよいことを理解している。
4	解して計算する方法(減	・減数が9、8の場合の計算練習に取り組む。	
5	加法)の理解を確実にす る。	・減数が7の場合の計算の仕方を考える。 ・計算練習に取り組む。	

(2) 12-3の けいさん p.110～111 2時間

1	○11～18から1位数をひく 繰り下がりのある減法 計算で、減数を分解して 計算する方法(減々法)	・場面を読み取り、立式をする。 ・12-3の計算の仕方を考える。 ・減々法による計算方法についてまとめ る。	図減々法の計算の仕方を考え、図や言葉で説明し ている。
2	があることを知り、計 算の仕方についての理 解を深める。	・計算練習に取り組む。 ・文章題を解決する。	図11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法 計算は、10のまとまりから1位数をひけばよい ことを理解している。

(3) かあど れんしゅう p.112～113 5時間

1 5	○減法の計算能力を伸ば す。	・計算カードを用いたいろいろな活動を通 して、11～18から1位数をひく繰り下がり のある減法計算の練習をする。	図11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法 計算が確実にできる。
--------	-------------------	--	--

5 本時の学習

(1) 目 標

減数を分解して計算する方法(減々法)があることを知り、計算の仕方について説明する。

(2) 評価規準

観 点	おおむね満足できる (B)	支援を要する児童への手立て
数学的な考え方	減々法の仕方を、図や言葉で説明している。	ブロックをどのように操作するかを考え させ、ブロックを見ながら図に書かせる。

(3) 指導にあたって

本時の「自分の考えを書く活動」の中心は、適用問題の13-4の計算の仕方を減々法で考え、図に書くことである。これは、本時の目標にもつながる。

「つかむ」段階では、児童の興味・関心を高めるため、すぐに問題を提示せず、お菓子を何個食べるのか予想させ、児童の発表を取り入れながら既習内容の確認をする。これまでのひき算との違いに気づかせ、本時の課題を確実につかませる。

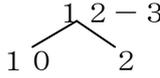
「見通す」段階で、前時までの学習と比べながら、どこから3を引いたらいいか考えさせ、減々法につながる解決の見通しを持たせたい。

「確かめる」段階の自力解決では、ブロック操作をさせた後、どのように操作したかを図に書かせていく。

(書く①) 減加法、減々法のどちらで計算しても、どこから3を引いたかが分かるように書かせる。集団解決では、それぞれの計算の仕方の違いを考えさせることで減々法という計算方法を知り、理解させる。児童から減々法の考え方が出なかったときには、こちらから知らせて学習を進めていく。集団解決後の適用問題では全員に減々法で計算させ、全員の評価規準達成を目指す。(書く①②) そして、今後は自分で計算方法を選択しながら計算していくようにさせる。

なお、本時の「書く活動の位置づけ方」は主として適用問題場面での書く活動となるので「位置づけ方B」である。

(4) 展開

段階	時間	学習内容 ○主発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ◆評価	
			T1	T2
つかむ	10分	1 前時までの学習を想起し、問題を把握する おかしが12こあります。 3こたべるとのこりはなんこですか。 ○式はどうなりますか。 ・12-3 2 課題を把握する ○今までのひき算と違うところはどこですか。 ・ひく数が今までより小さい。 12-3のけいさんのしかたをかながえよう。	・何個食べるのかを児童に予想させ、既習内容を振り返る。	・児童全体の様子を観察し、声掛けをする。
		3 解決の見通しをもつ ○どこから3をひきますか。 ・10からひく。 ・2からひいて、次に1からひく。	・本時は3をひくことを確認し、解決の見通しを持たせる。	・児童の見通しを把握しメモする。
確かめる		4 自力解決をする ○ブロックを使って計算しましょう。終わったら○図に自分の考えを書きましょう。 ・減加法〈ひくたす法〉  ○○ 10から3をひいて7 7と2で9  ・減々法  12の2をひいて、あとの1を10からひいて9 5 集団解決をする ○どのようにして計算したか発表しましょう。 ○2つのやり方の違うところはどこですか。 ・3をひいているところが違う。 ・ひくたす法は、3を10からひいたけど、もう1つのやり方は、2からひいてまた1をひいている。	書く活動①に関わって ・○図にどこからブロック3個を取ったかが分かるように書かせる。 ・だれがどの方法で計算しているか把握する。 ・早く終わった児童には、他の方法に取り組みさせる。	・支援が必要な児童を把握し、一緒に計算する。 ・集中して話を聞くように声掛けをする。
			・どちらの方法でも答えは同じになることを確認する。 ・減加法と減々法の計算方法の違いが分かるように黒板に整理する。	

	15分	<p>○今日新しく勉強した計算の仕方をまとめましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>12-3のけいさんのしかた〈ひくひく法〉</p> <p>①2から3はひけない。      <math display="block">\begin{array}{r} 12-3 \\ \quad \swarrow \searrow \\ \quad 2 \quad 1 \end{array}</math></p> <p>②3を2と1にわける。</p> <p>③12から2をひいて10。</p> <p>④10から1をひいて9。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式にある数字とブロックを照らし合わせ、3を2と1に分ける意味を確認しながらまとめていく。</li> </ul>	
まとめ	17分	<p>6 学習のまとめをする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>12-3は さきに ばらの 2から ひいても けいさんできる。</p> </div> <p>7 適用問題を解く</p> <p>○13-4を今日勉強した新しいやり方で計算してみましょう。</p> <p>○13-4をどのように計算したか、隣同士で発表しましょう。</p> <p>8 本時の学習をふり返る</p> <p>○今日の新しい計算の仕方が分かったか</p> <p>◎、○、△で書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロック操作をしてから図を書かせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>書く活動①②に関わって</p> <p>13-4を減々法で計算し、○図に書かせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆13-4を減々法を使って図や言葉で説明できたか（プリント）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・減々法の仕方の理解を深めるため、隣同士で計算の仕方を発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な児童を把握し、一緒に計算する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを発表することができない児童がいないか様子を観察し必要に応じて支援する。</li> </ul>